

全国の80%が中学校給食を実施 横浜市の中学校給食実現にむけて

アジェンダ及び選挙公報でお約束した「中学校給食の早期実現を目指します」の公約を実現するべく、会派内で中学校給食のプロジェクトチーム(以下、PT)を立ち上げました。

ご存知の通り、横浜市立中学校では、給食がありません。

学校で給食がないのは実に不思議なことだそうです。文部科学省の調べによると、国立・公立中学校の80%超が中学校給食を実施しています。

この数字を見ると、中学校給食が実施されていないのが不思議なことも納得できます。

学校給食法第4条には、「義務教育諸学校の設置者は、学校給食を実施されるよう努めなければならない」と法律で給食は実施するよう定められています。法律に

も定められており、全国的にも実施されている中学校給食がここ横浜で実施されていないことを問題視し、我々は、この横浜でも中学校給食を実施するために調査研究を開始しました。

昼食給食のあり方を検討する上で、横浜市の財政がわかれている状況を十分に理解し、加味しなければならぬことは間違いありません。しかし、給食を実施してほしいという強い要望がある中、実施をしないという方針を横浜市が取り続けるのは、いろいろな事柄を明確にしていかなければなりません。「小学校では給食が実施されているのに中学校はなぜ？」という市民レベル

の率直な疑問を置き去りにして前進するべきではないという観点もその一つです。学校給食法第4条にも努力義務として明確に記されていることから、我々はその努力の度合いを明確にし、説明する必要があると考える。

給食とは、学校給食法第11条第1項、第11条第2項、第7条に定義づけられています。

簡単にすると、「栄養士等が管理をし、調理場の設置、運営、調理人の人件費等は、当該学校の設置者が負担すること」が給食の定義となります。

給食の方式には、大きく分けて下記の方式があります。

- 1 自校調理方式
自分の学校の給食室で調理を行う。
- 2 親子方式
小学校の給食室で調理したものを、近隣の中学校に配送する。
- 3 センター方式
給食センターで調理したものを配送する。
- 4 宅配弁当(デリバリー)方式
民間の調理工場で調理したものを配送する。

◆北九州市給食視察
北九州市では、親子方式による中学校の完全給食が実施されています。

全国の政令指定都市の中学校給食で、親子方式が導入されているのは、北九州市だけとなります。

小学校で作った給食を食缶に詰めて中学校に運ぶ。この方式は、新たな給食室を中学校に作る費用が必要ありませんので、自校調理方式に比べて大幅に導入費用が圧縮できますが、各中学校に配膳室や搬入路を作らなくてはなりませんので、費用はそれなりに必要となります。

小学校を出たあと、契約業者によって中学校に運搬されます。運搬のトラックの中

はとても清潔でした。中学校へ届くと配膳室に運ばれます。配膳室で食品の温度チェック、盛り付け例の作成、検査へと進みます。主食(ごはん・パン)のみ、各業者の工場から直接中学校に運ばれます。ご飯は、1名分ずつ飯盒炊飯のような容器に入れられ、出来上がってきます。盛り付けの手間も省ける上、とても衛生的でした。

4時間目の授業が終わわり、各クラスの給食当番が配膳室に給食を取りに来ます。給食当番といえば白いイメージですが、ここでは黒い三角巾やエプロンを作成していました。これは、着用の抵抗感をなくするための工夫であるとの説明がありました。

各教室での盛り付けや配布、休んだ生徒などの余った分の対応については、小学校とまったく変わらぬ光景であり、生徒間のよいコミュニケーションも出ていました。

この日のメニューは、チーズハンバーグであり、ハンバーグといえばケチャップで煮込んだものが提供されるところを想像していましたが、北九州市では焼き物ができる設備を導入しており、焼いたハンバーグがメニューとして提供されました。

視察に参加した議員からは、「北九州市の取り組みは素晴らしい」と参加者全員口を揃えての感想となりました。

親子方式のメリットは、配送距離が短く、給食の温かさを確保した状態で提供できること、

②副食(おかず)は、食缶から注ぎ分けて配膳するため、量の調節ができること、

③中・長期的に見ると他の方式よりも経費がかからないこと、

④食育を進める上で重要な役割を担う栄養教諭や学校栄養職員を他の方式よりも確保できること、

などが挙げられます。

親子方式は、自校調理方式に劣らない魅力的なスタイルでした。



も定められており、全国的にも実施されている中学校給食がここ横浜で実施されていないことを問題視し、我々は、この横浜でも中学校給食を実施するために調査研究を開始しました。

昼食給食のあり方を検討する上で、横浜市の財政がわかれている状況を十分に理解し、加味しなければならぬことは間違いありません。しかし、給食を実施してほしいという強い要望がある中、実施をしないという方針を横浜市が取り続けるのは、いろいろな事柄を明確にしていかなければなりません。「小学校では給食が実施されているのに中学校はなぜ？」という市民レベル

の率直な疑問を置き去りにして前進するべきではないという観点もその一つです。学校給食法第4条にも努力義務として明確に記されていることから、我々はその努力の度合いを明確にし、説明する必要があると考える。

給食とは、学校給食法第11条第1項、第11条第2項、第7条に定義づけられています。

簡単にすると、「栄養士等が管理をし、調理場の設置、運営、調理人の人件費等は、当該学校の設置者が負担すること」が給食の定義となります。

給食の方式には、大きく分けて下記の方式があります。

- 1 自校調理方式
自分の学校の給食室で調理を行う。
- 2 親子方式
小学校の給食室で調理したものを、近隣の中学校に配送する。
- 3 センター方式
給食センターで調理したものを配送する。
- 4 宅配弁当(デリバリー)方式
民間の調理工場で調理したものを配送する。

◆北九州市給食視察
北九州市では、親子方式による中学校の完全給食が実施されています。

全国の政令指定都市の中学校給食で、親子方式が導入されているのは、北九州市だけとなります。

小学校で作った給食を食缶に詰めて中学校に運ぶ。この方式は、新たな給食室を中学校に作る費用が必要ありませんので、自校調理方式に比べて大幅に導入費用が圧縮できますが、各中学校に配膳室や搬入路を作らなくてはなりませんので、費用はそれなりに必要となります。

小学校を出たあと、契約業者によって中学校に運搬されます。運搬のトラックの中

はとても清潔でした。中学校へ届くと配膳室に運ばれます。配膳室で食品の温度チェック、盛り付け例の作成、検査へと進みます。主食(ごはん・パン)のみ、各業者の工場から直接中学校に運ばれます。ご飯は、1名分ずつ飯盒炊飯のような容器に入れられ、出来上がってきます。盛り付けの手間も省ける上、とても衛生的でした。

4時間目の授業が終わわり、各クラスの給食当番が配膳室に給食を取りに来ます。給食当番といえば白いイメージですが、ここでは黒い三角巾やエプロンを作成していました。これは、着用の抵抗感をなくするための工夫であるとの説明がありました。

各教室での盛り付けや配布、休んだ生徒などの余った分の対応については、小学校とまったく変わらぬ光景であり、生徒間のよいコミュニケーションも出ていました。

この日のメニューは、チーズハンバーグであり、ハンバーグといえばケチャップで煮込んだものが提供されるところを想像していましたが、北九州市では焼き物ができる設備を導入しており、焼いたハンバーグがメニューとして提供されました。

視察に参加した議員からは、「北九州市の取り組みは素晴らしい」と参加者全員口を揃えての感想となりました。

親子方式のメリットは、配送距離が短く、給食の温かさを確保した状態で提供できること、

②副食(おかず)は、食缶から注ぎ分けて配膳するため、量の調節ができること、

③中・長期的に見ると他の方式よりも経費がかからないこと、

④食育を進める上で重要な役割を担う栄養教諭や学校栄養職員を他の方式よりも確保できること、

などが挙げられます。

親子方式は、自校調理方式に劣らない魅力的なスタイルでした。

横浜市内でタウンミーティング開催

個人の市政報告会は開催出来ませんでした。が、会派(みんなの党横浜市議員団)としての議会報告会を昨年11月5日に開催しました。所属議員14名中12名の議員が参加し、保土ヶ谷区民の皆様と意見交換をしました。

この議会報告会は、昨年の横浜市議員選挙において、「我々みんなの党が年4回方面別にそれぞれ4回ず



保土ヶ谷区での議会報告会の様子

つ、計年16回議会報告会を開催し、市民の皆様が開かれた市政を行って参りたい」と「アジェンダ横浜2011」にてお約束をさせていたものでした。

会派の議会報告会も行いますが、今後は、個人の市政報告会を開催し、横浜の議会でのようなことが議論されたいと考えています。

各地域の素晴らしい取組みを横浜でも実現したい

委員会視察、会派視察、個人視察などで市内の施設はかなりの箇所を視察しました。ここでは主な市外視察のみを報告いたします。

常任委員会の行政視察は、夏と秋の2回あります。

昨年7月には新潟県へ。新潟市と新潟県では、震災対策や避難者の受け入れなどについて、佐渡市では観光施策についての視察を行いました。

10月には宮城県と岩手

県へ。仙台市では、スポーツ複合施設、気仙沼市では、震災の被害と復興について、平泉町では、観光施策について視察を行いました。

個人視察では、7月に大阪府に行き、国際弁護士から大阪府立高校の校長になつた中原徹先生から真の国際化、英語教育の重要性について話を伺いました。

会派視察では、神戸市・



北九州市の給食

北九州市・相模原市へ。中学校給食実現に向けて、各都市の取り組みを視察しました。

財政面など、デメリットもさらに調査をし、横浜でも導入できないか調査を進めていきたいと考えています。

◆相模原市給食視察
相模原市では、ランチボックスを使用したデリバリー方式による中学校の給食が実施されています。

(城山・津久井地区の7校については、合併前から引き続き給食センター方式による給食を継続実施しています。)

このデリバリー方式では、給食を食べたい・利用したい生徒は給食を、お弁当などを持参したい生徒はお弁当をと、それぞれの希望の給食が選べる点が特徴です。

栄養バランスを考えた相模原市の給食
栄養バランスを考慮した安全安心な給食とするため、相模原市の栄養士が献立をつくり、地場農産物を積極的に活用するなど、食材の発注までを栄養士が行っています。

また、利用しやすい給食を目指してインターネット予約や1日単位の予約ができるなど、保護者の利便性を高める取り組みもされています。

事前にコンビニエンスストアで代金を納入するシステムで、パスモやスイカのチャージをするイメージです。

7日前までの予約変更が可能なシステムを導入しています。

利用者にとっては便利ですが、食材発注側の栄養士の仕事としては、全員一律でなく、7日前までの変更可能なシステムは、難しい仕事になっています。

このシステムは、給食費の未納問題が生じないのが最大のメリットであるといえ

ます。また、子ども達にお金を使わせない、持たせないのも特徴のひとつです。

市内の仕出し業者や給食業者がそれぞれの調理工場で作ったものを中学校に運んでいます。

親子方式同様、この方式は、新たな給食室を中学校に作る費用が必要ありませんが、各中学校に配膳室や搬入路を作らなくてはなりません。

この日のメニューは、豚のしょうが焼きでした。このスタイルだとどうしても給食ではなく業者弁当というイメージが強くあります。そして、冷たいお弁当です。しかしながら、メニューや栄養管理など、様々な面で栄養士が愛情を持って管理していることが話の中で伝わってきました。(給食の考え方は、小学校と変わりません。)

家庭から持ってくるお弁当もお昼には温かくはないと思います。

近いうちに実現したい「横浜方式の給食」
ここまで3政令市の中学校給食や昼食の取り組みを見てまいりましたが、相模原市の取り組みが一番現実的な方式であると考えます。

本年5月に名古屋及び岡山市の中学校給食の取り組みを視察し、「横浜方式の昼食」ではなく、「横浜方式の給食」と呼べるものの実現に取り組んでまいります。

北九州市・相模原市へ。中学校給食実現に向けて、各都市の取り組みを視察しました。

財政面など、デメリットもさらに調査をし、横浜でも導入できないか調査を進めていきたいと考えています。

◆相模原市給食視察
相模原市では、ランチボックスを使用したデリバリー方式による中学校の給食が実施されています。

(城山・津久井地区の7校については、合併前から引き続き給食センター方式による給食を継続実施しています。)

このデリバリー方式では、給食を食べたい・利用したい生徒は給食を、お弁当などを持参したい生徒はお弁当をと、それぞれの希望の給食が選べる点が特徴です。

栄養バランスを考えた相模原市の給食
栄養バランスを考慮した安全安心な給食とするため、相模原市の栄養士が献立をつくり、地場農産物を積極的に活用するなど、食材の発注までを栄養士が行っています。

また、利用しやすい給食を目指してインターネット予約や1日単位の予約ができるなど、保護者の利便性を高める取り組みもされています。

事前にコンビニエンスストアで代金を納入するシステムで、パスモやスイカのチャージをするイメージです。

7日前までの予約変更が可能なシステムを導入しています。

利用者にとっては便利ですが、食材発注側の栄養士の仕事としては、全員一律でなく、7日前までの変更可能なシステムは、難しい仕事になっています。

このシステムは、給食費の未納問題が生じないのが最大のメリットであるといえ



相模原市の給食(これにご飯が付きます)